

政策評価シート（令和元～4年度）

評価責任者	所属	観光交流文化局
	氏名	局長 望月 哲也

分野	1 観光・交流
----	---------

政策	2 国内外からの誘客と交流を推進します
政策の目的	【交流人口の拡大による地域活性化への期待】 ○地域の人々がまちの魅力を再発見するとともに、その魅力を国内外に発信し、来訪意欲を高める必要があります。 ○MICEの誘致は多くの人を呼び込み、地域の活性化につながります。

(1) 総合評価

評価	<b>C：政策の目的が達成されていない</b>
理由	新型コロナウイルス感染症の影響により、外出の自粛や渡航制限の影響もあり、当初予定していた事業が実施できず、「市内宿泊者数」の目標値を下回った。 しかしフランス、台湾、スペイン、モリシャスといったホストタウン相手国・地域とのオンライン交流の導入や、WEB上で本市を認知してもらうための動画作成やプレスリリースなど、コロナ禍でもデジタル技術を活用した交流事業や誘客事業を展開できたことは評価できる。

※【評価基準】 S：政策の目的が十分に達成されている。A：政策の目的が達成されている。B：政策の目的があまり達成されていない。C：政策の目的が達成されていない。  
※総合評価は、原則、指標の達成状況（達成率）に基づき判断する。ただし、指標の分析結果や指標以外の成果等により、指標の達成状況（達成率）と異なる評価とする場合は、その理由を必ず記載すること。

(2) 成果指標

指標名	現状値	R4目標値	実績値 (R4.3末時点)	達成率(%) (R4.3末時点)	評価	目標値の算出根拠
市内宿泊者数	1,763千人 (H27-29平均)	2,027千人	1,628千人	80.3%	<b>C</b>	第三次静岡市総合計画期間中に30%の増加を目指していることから、令和元年度～4年度の4年間で、現状値から15%増加を目指す。
					—	

※【評価基準】 s：既に目標値を達成している、a：目標値を達成する見込みである、b：目標値をやや下回る見込みである、c：目標値を大幅に下回る見込みである

(3) 第4次総合計画に向けた見直し等

<p>○今後は、ウィズコロナ・アフターコロナの中で、デジタル技術の発展、国際情勢の動向などの社会情勢の変化にも対応できる誘客や交流事業を展開していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>観光客がどのような媒体を用いて情報収集しているかを的確に把握した狙うべきターゲットに対する効果的・積極的な情報発信</li> <li>新型コロナウイルス感染症の回復も見据えつつ、社会情勢の変化にも対応できるMICEの誘致やインバウンド事業の推進</li> <li>対面だけでなくオンライン交流などのデジタル技術も活用しながら、スポーツを通じてつながった関係を経済・教育などの様々な分野へ交流を広げていくなどの海外との多彩な交流の推進</li> </ul>
--

(4) 政策を構成する施策及び主要事業

施策1	静岡市ならではの資源を活用したシティプロモーションの推進		
総合評価結果	R元	R2	R3
	S	A	A

施策2	静岡市の特長を活かしたMICEの誘致		
総合評価結果	R元	R2	R3
	A	—	—

施策3	多様なネットワークを通じた世界の人々との交流促進		
総合評価結果	R元	R2	R3
	B	—	—

# 施策評価シート（令和元年度～4年度）

分野	1 観光・交流
----	---------

政策	2 国内外からの誘客と交流を推進します
----	---------------------

施策	1 静岡市ならではの資源を活用したシティプロモーションの推進
----	--------------------------------

施策の目的	静岡市出身の漫画家「さくらももこ」氏のキャラクターなど、静岡市ならではの資源を活かし、中部広域観光推進協議会への参加や姉妹都市や周辺市町との連携により、観光資源をはじめとした本市の魅力を広く発信することで、シティプロモーションを強化し、国内外からの交流人口の拡大を図ります。
-------	---

評価責任者	所属	市長公室 広報課
	氏名	課長 浪越 達也

## （1）総合評価

総合評価	令和元年度	<b>S：施策の目的が十分に達成されている。</b>	理由	定期的なプレスリリースやメディアを本市に招くプレスツアー、首都圏での記者発表会の開催など、継続的にメディアと連携しながらPR活動を実施した結果、都内在住の方が本市の情報を聞き取る機会が増え、「情報接触度」が対前年度比約1割増加したため、「S」評価とした。
	令和2年度	<b>A：施策の目的が達成されている。</b>	理由	新型コロナウイルスの影響により、プレスツアーや発表会などの直接的な情報発信はできなくなってしまったが、定期的なプレスリリースを拡充したり、WEB上で本市を認知してもらうための動画を作製する等、コロナ禍でも実施できる方法で、継続的にメディアと連携しながらPR活動を実施し、本市の情報を聞き取る機会を提供し続けた結果、達成率が97.5%となったため「a」評価とした。
	令和3年度	<b>A：施策の目的が達成されている。</b>	理由	昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染状況を踏まえプレスツアーなどの直接的な情報発信ができなかったが、開館40周年を迎えた芹沢銈介美術館や、レッサーパンダの赤ちゃん誕生、大河ドラマで取り上げられた「渋沢栄一」に関する情報等、メディアが取り上げやすいコンテンツを選んだプレスリリースの実施や、首都圏における中部5市2町主催の街道プロモーションイベントのメディア向け取材会の実施による、多くのメディアに本市の特産品が取り上げられた結果、「情報接触度」が目標値を達成したため「a」評価とした。
	令和4年度	—	理由	—

※【評価基準】 S：施策の目的が十分に達成されている。A：施策の目的が達成されている。B：施策の目的があまり達成されていない。C：施策の目的が達成されていない。—：評価できない。  
 ※総合評価は、原則、指標の達成状況（達成率）に基づき判断する。ただし、指標の分析結果や指標以外の成果等により、指標の達成状況（達成率）と異なる評価とする場合は、その理由を必ず記載すること。

## （2）成果指標

成果指標	指標名	現状値	年度	目標値	実績値	達成率（%）	評価	目標値の算出根拠
			1	54.00%	58.40%	108.1%	s	
情報接触度 （静岡市について聞き取ったことがある人の割合）	53.6% （平成30年度）	2	54.35%	53.00%	97.5%	a		
		3	55.00%	55.90%	101.6%	a		
		4	60.00%	—	—	—		
		1						
指標 成果 以外の			2					
			3					
			4					
			1					

※【評価基準】 s：105%以上、a：95%以上105%未満、b：85%以上95%未満、c：70%以上85%未満、d：70%未満

(3) 施策を構成する主要事業

主要事業名	主な活動内容	優先順位	年度	現計予算額	前年度からの繰越額	決算額	人工			達成状況
							正規	非常勤	臨時	
シティプロモーションの推進	・「静岡市はいいねえ。」キャンペーン (さくらももこ氏作成のイラスト活用事業)	1	1	13,004	0	10,896	1.0	—	—	○
			2	16,504	0	12,680	1.0	—		
			3	22,479	0	19,000	1.0	—		
			4	—	—	—	—	—		
ロケーション撮影の支援	・各種番組等の撮影支援 ・映画撮影会社への訪問(制度PR等)	2	1	10,000	0	10,000	0.5	—	—	○
			2	6,000	0	2,024	0.5	—		
			3	6,000	0	0	0.5	—		
			4	—	—	—	—	—		
			1							
			2							
			3							
			4							
			1							
			2							
			3							
			4							

※主要事業の優先順位は、各施策の目的や指標を達成する上で、重要度、貢献度などの観点から高いものから順位とする。

※達成状況の凡例(◎:計画より進んでいる、○:計画どおり進んでいる、△:計画より遅れている、—:計画上実施時期が到来していない、新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかった)

(4) 今後に向けた見直し等

年度	課題	見直しの方向性
令和元年度	新型コロナウイルス感染症の影響により、プレスツアーや首都圏での発表会など、直接的な情報発信が不可能となっている。	委託業者と密に連携を取りながら、コロナ禍でのメディアへの情報発信の方法を検討していく。
令和2年度	昨年度から引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響により、プレスツアーや首都圏での発表会など、直接的な情報発信が不可能となっている。	プレスツアーや発表会の代わりに、プレスリリースの回数を増やしたり、PR動画を作製したりする等の工夫をしたが、引き続き委託業者と密に連携取りながら、コロナ禍でのメディアへの効果的な情報発信の方法を検討していく。
令和3年度	令和元年度、2年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響により、プレスツアーや首都圏での発表会など、直接的な情報発信が不可能となっている。	首都圏におけるメディア取材会は、コロナ禍において感染対策の徹底や人数や時間を制限して実施するなど、工夫ができたので、今後も引き続き委託業者と密に連携を取りながら、ポストコロナを見据えたメディア露出に繋がる効果的な情報発信の方法を検討していく。
令和4年度	—	—

# 施策評価シート（令和元年度～4年度）

分野	1 観光・交流
----	---------

政策	2 国内外からの誘客と交流を推進します
----	---------------------

施策	2 静岡市の特長を活かしたMICEの誘致
----	----------------------

施策の目的	3次総に掲げる「世界に輝く静岡の実現」のため、経済効果の高いMICEの誘致を推進します。誘致活動の際は、本市の特長を活かし、本市開催の意義や必然性をアピールし、誘致活動をしていきます。 また、東京2020オリンピック・パラリンピック開催により、これまで東京等で開催してきた大型コンベンションの会場が使用不可となることが想定されるため、ツインメッセ等のコンベンション施設を使用した本市開催を提案していくことで、MICEの誘致を推進し交流人口の拡大を図っていきます。
-------	--

評価責任者	所属	観光・MICE推進課
	氏名	課長 福地 剛

## (1) 総合評価

総合評価	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	理由
	A：施策の目的が達成されている。	—	—	—	新型コロナウイルスの影響により、指標としている「MICEの支援件数」が下振れしたものの、年度途中までは支援件数も順調に推移しており、また、「受入MICEの参加者数」については目標を大きく上回る成果を得られたため。
		—	—	—	新型コロナウイルス感染症の影響（緊急事態宣言の発出等）により国内外の移動が大きく制限され、当初想定していた事業が実施できなかった。また、設定している指標「MICE支援件数・受入MICEの参加者数」についても、新型コロナウイルス感染症の影響による会議等開催中止の影響を受けて著しく減少しているため、適正な実績値として評価することができない。
			—	—	新型コロナウイルス感染症の影響（緊急事態宣言の発出等）により国内外の移動が大きく制限され、当初想定していた事業が実施できなかった。また、設定している指標「MICE支援件数・受入MICEの参加者数」についても、新型コロナウイルス感染症の影響による会議等開催中止の影響を受けて著しく減少しているため、適正な実績値として評価することができない。
				—	—

※【評価基準】 S：施策の目的が十分に達成されている。A：施策の目的が達成されている。B：施策の目的があまり達成されていない。C：施策の目的が達成されていない。—：評価できない。  
※総合評価は、原則、指標の達成状況（達成率）に基づき判断する。ただし、指標の分析結果や指標以外の成果等により、指標の達成状況（達成率）と異なる評価とする場合は、その理由を必ず記載すること。

## (2) 成果指標

成果指標	指標名	現状値	年度	目標値	実績値	達成率（%）	評価	目標値の算出根拠
			1	168件	158件	94.0%	b	
成果指標	MICE支援件数	166件 (H27～29の平均)	2	169件	12件	7.1%	d	<ul style="list-style-type: none"> <li>●本市の支援制度を活用して開催されたMICEの実績を取組の成果を表す成果指標とするため、支援件数及び参加者数を設定している。</li> <li>●現状値は、社会経済情勢などの外的要因や大型案件の有無によって上振れ・下振れするため、3次総前期中のH27～29年度の平均とした。</li> <li>●目標値は、直近の実績から5%程度の増加を目指す。</li> </ul>
			3	171件	46件	26.9%	d	
			4	174件	—	—	—	
			1	347千人	432千人	124.5%	s	
	受入MICEの参加者数	344千人 (H27～29の平均)	2	351千人	85千人	24.2%	d	
			3	354千人	59千人	16.7%	d	
			4	361千人	—	—	—	
			1					

※【評価基準】 s：105%以上、a：95%以上105%未満、b：85%以上95%未満、c：70%以上85%未満、d：70%未満

(3) 施策を構成する主要事業

主要事業名	主な活動内容	優先順位	年度	現計予算額	前年度からの繰越額	決算額	人工			達成状況
							正規	非常勤	臨時	
①MICEキーパーソン訪問・招聘事業	・MICEキーパーソン訪問・招請 ・関係省庁への情報収集、誘致活動	1	1	796	0	265	0.5	0.1	0.0	△
			2	796	0	273	0.3	0.1	0.0	
			3	687	0	0	0.3	0.1	0.0	
			4	—	—	—	—	—	—	
②全国大会等開催支援事業	・市内での会議、学会、各種大会主催者に対する補助	1	1	28,900	0	26,937	0.1	0.5	0.0	△
			2	33,000	0	3,452	0.1	0.3	0.0	
			3	25,000	6,400	16,356	0.1	0.3	0.0	
			4	—	—	—	—	—	—	
③日仏自治体交流会議の誘致・開催	・日仏自治体交流会議の誘致活動 ・仏語CIR（国際交流員）の活用	1	1	4,030	0	3,989	1.0	1.0	0.0	○
			2	501	0	154	1.0	1.0	0.0	
			3	5,620	0	187	1.0	1.0	0.0	
			4	—	—	—	—	—	—	
④ツインメッセ静岡の機能強化の検討	・施設の機能維持・強化に向けた改修計画について（公財）静岡産業振興協会との協議 ・南館大規模改修工事の実施時期の決定（R4） ・南館大規模改修工事に向けた基本計画策定業務の実施サポート	1	1	5,000	0	4,895	0.2	0.0	0.0	○
			2	18,000	0	17,875	0.2	0.0	0.0	
			3	44,990	0	44,990	0.2	0.0	0.0	
			4	—	—	—	—	—	—	
⑤東京2020オリンピック・パラリンピックの合宿等誘致事業	・2020年東京オリパラ事前合宿誘致方針に基づく誘致活動 ・東京オリパラ事前合宿の受入れ（台湾陸上、スペインバドミントン・パラバドミントン、モーリシャス各競技） ・国内競技団体等への誘致活動	1	1	44,656	0	27,881	1.4	0.1	0.0	○
			2	41,256	0	4,291	1.4	0.1	0.0	
			3	45,395	13,943	34,637	5.0	0.2	0.0	
			4	—	—	—	—	—	—	

※主要事業の優先順位は、各施策の目的や指標を達成する上で、重要度、貢献度などの観点から高いものから順位とする。

※達成状況の凡例（◎：計画より進んでいる、○：計画どおり進んでいる、△：計画より遅れている、—：計画実施時期が到来していない、新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかった）

(4) 今後に向けた見直し等

年度	課題	見直しの方向性
令和元年度	全体) 新型コロナウイルスの影響により、会議やイベント、交流のあり方が大きく変わっていくことが予想される	全体) 関係主体と連携のもと情報収集に努め、時勢に応じて、事業の内容や実施方法等について見直しを検討する。
令和2年度	全体) 新型コロナウイルスの影響により、国内外における「移動」そのものが規制され、事業そのものを開催することができない。 ⑤東京2020オリンピック・パラリンピックの延期に伴い、ホストタウン相手国・地域との交流を途絶えさせない取組、国内競技団体の継続した市内合宿の誘致	全体) 実際の移動はできないものの、回復期にタイミングを外すことがないよう、オンラインによる誘致活動や、DM発送を行っていく。 ⑤コロナ禍の渡航制限等により、合宿受入れ等の直接的な人的交流の実施が難しい中、オンライン等を活用した間接的な交流に切り替え、相手国・地域との交流を深めていく。市内合宿時に競技団体から要望等を聴取し、受入施設とも連携を図りながら、オリパラ後の交流継続や合宿誘致に取り組む。
令和3年度	①コロナ禍を契機にMICEのあり方が大きく変容している。この状況を的確にとらえ、国内外における移動制限が撤廃された際に、効果的に本市への誘客を図ることが課題。 ⑤東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会は閉幕したが、ホストタウン相手国・地域との交流を途絶えさせない取組。国内競技団体の継続した市内合宿の誘致。	全体) 関係主体との連携のもと情報収集を行い、新しいMICEに求められる事柄を把握し、必要な受入体制を構築するとともに、回復期にタイミングを外すことがないよう、オンラインによる誘致活動や、DM発送を行っていく。 ⑤東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が閉幕したが、ホストタウン相手国・地域との交流を途絶えさせないために、オンライン等を活用した交流を推進していく。また、市内合宿時に競技団体から要望等を聴取し、受入施設と連携を図り、継続した合宿の誘致に取り組んでいく。—
令和4年度	—	—

# 施策評価シート（令和元年度～4年度）

分野	1 観光・交流
----	---------

政策	2 国内外からの誘客と交流を推進します
----	---------------------

施策	3 多様なネットワークを通じた世界の人々との交流促進
----	----------------------------

施策の目的	富士山静岡空港就航先とのネットワークを活用した国内プロモーションや、2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて急増する訪日外国人観光客を静岡へ誘致するため、韓国、台湾、タイ市場を中心とし、現地でのプロモーションや情報発信事業等を実施することにより、国内外からの誘客と交流を推進します。
-------	--

評価責任者	所属	観光・MICE推進課
	氏名	課長 福地 剛

## （1）総合評価

総合評価	令和元年度	B：施策の目的があまり達成されていない。	理由	新型コロナウイルスの影響により、令和2年2月以降、成果指標の実績が著しく下振れしたが、1月以前の実績は現状値を上回る推移をしていたことから、施策を計画的に実施した効果があったものと評価する。 一方で、新型コロナウイルスの影響による施策への影響は今後も長期的なものとなることが懸念されるため、総合評価は達成率と同等のB評価とした。
	令和2年度	—	理由	新型コロナウイルス感染症の影響（緊急事態宣言の発出等）により国内外の移動が大きく制限され、当初想定していた事業が実施できなかった。また、設定している指標「外国人宿泊者数」についても、新型コロナウイルス感染症の影響による海外への渡航制限等の影響を受けて著しく減少しているため、適正な実績値として評価することができない。
	令和3年度	—	理由	—新型コロナウイルス感染症の影響（緊急事態宣言の発出等）により国内外の移動が大きく制限され、当初想定していた事業が実施できなかった。また、設定している指標「外国人宿泊者数」についても、新型コロナウイルス感染症の影響による海外への渡航制限等の影響を受けて著しく減少しているため、適正な実績値として評価することができない。
	令和4年度	—	理由	—

※【評価基準】 S：施策の目的が十分に達成されている。A：施策の目的が達成されている。B：施策の目的があまり達成されていない。C：施策の目的が達成されていない。—：評価できない。  
 ※総合評価は、原則、指標の達成状況（達成率）に基づき判断する。ただし、指標の分析結果や指標以外の成果等により、指標の達成状況（達成率）と異なる評価とする場合は、その理由を必ず記載すること。

## （2）成果指標

成果指標	指標名	現状値	年度	目標値	実績値	達成率（％）	評価	目標値の算出根拠
			外国人宿泊者数	59千人	1	68千人	60千人	
		2	77千人	5千人	6.5%	d		
		3	86千人	9千人	9.6%	d		
		4	94千人	—	—	—		
指標以外の成果			1					
			2					
			3					
			4					

※【評価基準】 s：105%以上、a：95%以上105%未満、b：85%以上95%未満、c：70%以上85%未満、d：70%未満

(3) 施策を構成する主要事業

主要事業名	主な活動内容	優先順位	年度	現計予算額	前年度からの繰越額	決算額	人工			達成状況
							正規	非常勤	臨時	
①外国人観光客の誘致	・台湾プロモーション ・韓国プロモーション ・タイプロモーション	1	1	6,264	0	4,688	1.0	0.0	0.0	△
			2	7,468	0	2,265	1.0	0.0	0.0	
			3	6,963	0	2,897	1.0	0.0	0.0	
			4	—	—	—	—	—	—	
②訪日教育旅行の誘致	・各種訪日教育旅行補助制度の紹介 ・貸切バス代の補助	1	1	2,000	0	194	0.6	1.0	0.0	○
			2	1,000	0	0	0.6	1.0	0.0	
			3	500	0	0	0.6	1.0	0.0	
			4	—	—	—	—	—	—	
③富士山静岡空港就航先との交流促進	金沢市との交流 ・金沢百万石まつりへ観光PRブースを出展 ・静岡まつりへの金沢市観光ブースの受入 那覇市との交流 ・静岡まつりへの那覇市観光ブースの受入	1	1	145	0	62	0.1	0.0	0.0	△
			2	145	0	0	0.0	0.0	0.0	
			3	—	—	—	—	—	—	
			4	—	—	—	—	—	—	
④「まちは劇場」推進事業	・「まちは劇場」ブランディング ・フェスティバル評価システム構築ほか	1	1	35,939	0	20,549	1.1	0.0	0.0	○
			2	27,917	0	17,111	1.1	0.0	0.0	
			3	35,917	0	34,975	1.1	0.0	0.0	
			4	—	—	—	—	—	—	

※主要事業の優先順位は、各施策の目的や指標を達成する上で、重要度、貢献度などの観点から高いものから順位とする。

※達成状況の凡例 (◎：計画より進んでいる、○：計画どおり進んでいる、△：計画より遅れている、—：計画実施時期が到来していない、新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかった)

(4) 今後に向けた見直し等

年度	課題	見直しの方向性
令和元年度	全体) 新型コロナウイルスの影響により、当面の間、海外旅行者が激減するとともに、国内観光や交流のあり方も大きく変わっていくことが予想される	全体) 関係主体と連携のもと情報収集に努め、時勢に応じて、事業の内容や実施方法等について見直しを検討する。
令和2年度	全体) 新型コロナウイルスの影響により、国内外における「移動」そのものが規制され、事業そのものを開催することが困難な状況にあり、実施方法等を検討して状況の変化に備える必要がある。	全体) 現地での事業実施が難しい中でも、関連事業者との関係構築や情報収集に努め、時勢に応じて、事業内容や実施方法等について検討し、情報・魅力発信を行っていく。
令和3年度	—	—
令和4年度	—	—